

令和7年2月1日号広報ちはら台へ掲載しました

## がんになっても仕事は辞めないで ～がん相談支援センターを活用してください～

千葉ろうさい病院  
がん性疼痛看護認定看護師 市川 悦子

がんのイメージに関する調査によると、日本人の多くは、がんは稀な病気だと考えているようです。しかし、実際には日本人の2人に1人ががんに罹患するとされていて、誰にとっても身近な病気となっています。がんは、高齢になるほど増えますが、約3割が働く世代（20～64歳）であり、現役世代にとっても無関係とはいえません。がん医療の進歩により、早期に発見され、身体に負担のかからない治療や通院での治療が可能となり、「がんと共に生活し、働くことができる」ケースが増えてきました。一方で、経済的な問題、体調や治療状況に合わせた働き方の問題、誰に相談すればよいかわからないなどの相談先の問題により、治療と仕事の両立に困難を感じている方も少なくありません。

現在、国では、がん患者さんの治療と仕事の両立をサポートするために、就労支援に力を入れています。そのための代表的な相談窓口が、がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」です。患者さんやご家族のほか、がん診療連携拠点病院で診療を受けていない方も無料で利用できます。病気やその治療法、副作用についての悩み、医療費の悩み、職場への伝え方など、疑問や悩みの解決に向けて専門の相談員が対応しています。具体的な悩みはもちろんですが、何に困っているのかわからないという方も、話をする中で整理することができます。適切な治療を受けながら働きつづけられるように相談窓口を活用してください。

**がんになっても仕事は辞めないで  
がん相談支援センターを  
活用してください**

千葉ろうさい病院  
がん性疼痛看護認定看護師 市川 悦子

がんのイメージに関する調査によると、日本人の多くは、がんは稀な病気だと考えているようです。しかし、実際には日本人の2人に1人ががんに罹患するとされていて、誰にとっても身近な病気となっています。がんは、高齢になるほど増えますが、約3割が働く世代（20～64歳）であり、現役世代にとっても無関係とはいえません。がん医療の進歩により、早期に発見され、身体に負担のかからない治療や通院での治療が可能となり、「がんと共に生活し、働くことができる」ケースが増えてきました。一方で、経済的な問題、体調や治療状況に合わせた働き方の問題、誰に相談すればよいかわからないなどの相談先の問題により、治療と仕事の両立に困難を感じている方も少なくありません。

現在、国では、がん患者さんの治療と仕事の両立をサポートするために、就労支援に力を入れています。そのための代表的な相談窓口が、がん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」です。患者さんやご家族のほか、がん診療連携拠点病院で診療を受けていない方も無料で利用できます。病気やその治療法、副作用についての悩み、医療費の悩み、職場への伝え方など、疑問や悩みの解決に向けて専門の相談員が対応しています。具体的な悩みはもちろんですが、何に困っているのかわからないという方も、話をする中で整理することができます。適切な治療を受けながら働きつづけられるように相談窓口を活用してください。

**ろうさい病院無料送迎バス**  
通院に便利な無料バスを  
運行しております。  
（ろうさい病院で乗車  
または乗降される  
方に限りです）  
詳細は、ちはら台自治会連合会の  
ホームページをご覧ください。

